

変更届の留意点



最近、転換期間中から有機圃場へ、加工品目の追加、小分け場所や設備の増設、製造・加工場や機械の追加など認定事項変更申請書の提出が増えています。

そこで、変更届を提出される場合の留意点と認定されるまでの流れをお知らせします。

重要

- ・認定事項変更申請書の他にも必要な書類があります。
- ・認定事項変更申請書を提出すれば、すぐに、変更する内容で生産や格付出荷できるものではありません。
- ・継続申請と同様に、変更内容を検査・判定し、変更可能となります。

まず、事務局に変更内容をお知らせください。

- ・具体的な変更内容を聞き取り、必要な書類をお伝えします。
- ・変更事項の認定がおりる期間は変更内容により違うため、生産や格付出荷などが可能になるおおよその時期をお知らせします。

★緊急の場合は、臨時判定委員会などでできる限り対応しますが、数日では判定できません。 **認定事項変更申請書の提出は計画的に！！**

(A) 書類のみ検査する場合

- ・転換期間中から有機圃場へ
- ・責任者、担当者の変更
- ・加工品目の追加 など

(B) 現場を実地検査する場合

- ・圃場の追加
- ・小分け場所や設備の増設
- ・製造・加工場や機械の追加 など

検査員が書類を検査する。

検査員が現場に行き、臨時検査する。

検査員が報告書を作成・提出する。(原則 2 週間)

月 1 度の判定委員会で判定する。

ここで変更可能と判定されて初めて変更することができます。
必要な場合は確認証を発行します。

有機農家の世界

『正月は8人の孫が一同に』



あれよあれよ、という間に、次から次へと孫が誕生したというのが実感だ。2歳から小学校2年生まで8人がひしめきあっている。5～6年前までは想像にもしなかった。私たち夫婦には3人の子がいる。長女の真知子はマチコネギの名前の由来の真知子で36歳になる。その真知子の長女、香子（こうこ）は4月からは小3だ。その香子がこの間まで、“じーじ嫌い”を連発していて、本心からではないと思うが、生意気盛りだ。もうすっかり街の子になってしまった。長男の太郎5歳は早熟の姉の香子と比べるとまだまだ幼く頼りない。次男の次郎は3歳だが上の2人の兄弟にもまれてたくましい面もあるが、真似ばかりしている。彼らが暮らす姫路市の家まで週一で野菜セットと卵を宅配便で届けている。3人の孫は届く野菜セットが私から届くということは承知している。香子はマチコネギの由来も理解している。私の後継者、長男の真道34歳は隣町からの通勤農業だ。篤人6歳は今年から小学校へ。過日は保存中のジャガイモの芽欠きも一人でこなしていた。長女春陽（はるひ）4歳はとにかくよく食べるし良く喋る。次女朱陽（あけひ）は2歳というのに孫たちの中で最も早熟で喋りまくっている感じ。この3人の孫は近在ということもあり頻繁にくる。大阪で暮らす次男、朋広32歳は完ぺきに都会人間だ。かな4歳と楓太2歳がいる。かなはこの間まで、うちへ来ても親から離れようとはしなかったが4歳になった今は、私とも会話ができるように成長した。ここへは隔週で米と野菜と卵を届けている。大都会での暮らしは低賃金では厳しいだろう、添加物だらけの食べ物が減ればと願って届けている。次男には盆正月の帰省時は力仕事を用意して待っている。この正月も鶏舎のクモの巣払いと、畑へ侵入する笹の刈り取りをしてもらった。孫たちで一番困るのは食事だ。今年は手巻き寿しでパーティーをやったが、大人を入れると総勢16人、妻と私はフル回転でてんてこ舞いだった。孫がみんな帰ったのは9日のことだ。8人の孫はうれしいが地球規模の温暖化、生態系の崩壊、政治の反動、格差の拡大を考えると孫たちの将来が心配極まりない。

理事長 牛尾 武博

おすすめ本

『江戸の糞尿学』



江戸では、糞尿の利用が“循環システム”として完成していた。これが、いかに先進的で、環境と調和したものだったかは、汚物にまみれていた西洋の大都市パリやロンドンなどと比較するとよくわかる。江戸時代の日本人にとって、糞尿は価値あるものだった。そのため、産業にとどまらず、文化でもあった。本書は、江戸時代における日本人と糞尿の関係を、産業・文化など多面的にまとめたエコ&リサイクルの物語です。
著者：永井義男 出版社：作品社

『旅とオーガニックと幸せと』



WWOOFは旅人と有機農家をつなぐ仕組み。旅人は農作業を手伝い、農家は宿泊と食事を提供する。お金のやりとりはない。彼らは、みんな幸せそうに生きている。なぜだろう？ その答えは、本書にある。動いてみたら、何かが変わるかもしれない
著者：星野紀代子 出版社：コモンズ